京城日日新聞

思想問題と宗教（上）

文學士 島山逸民

思想問題の議々として論議せらるゝや、政府は一方過激危險なる言論を取締ると同時に、他方國民の穏健思想を鼓舞するに努めつゝあり。最近も地方官會議の席上、內相の訓示、兩者に瓦りて、其の趣旨の徹底を期せんとしたり。其の思想問題に關するものにありては過激思想なる者に對しては取締を必要とするも、要するに思想問題は思想其の者の對立研磋に依りて淘汰を圖るを本義とすと爲すに似たり。又其の宗教問題に關するものにありては、敬神及び崇佛思想の鼓吹を專一とするにありて、要するに我神道復古及び佛教弘布を以て、其の骨子とするに似たり。此の二個の思想、即ち內相訓示の要項を爲せる此の二個の思想は吾人之を相矛盾する二個の希望と解釋するに躊躇せず。

第一既に思想問題を以て、思想其者の對立研磋に歸すべき以上、宗教上の信仰決定及び其の選擇に付ても、亦其の對立研磋に任ず可き筈にして、何れの宗教、何れの信仰に付ても之が信仰決定及び其の選擇を選む可き筈のものにあらず。他なし宗教上の信仰は又思想の自由に關するものなるを以て也。且憲法既に信仰の自由を保障したる以上、宗教上の信仰に付て行政官が一々國民に指示す可き必要なきのみならず、又之を强制す可き理由ある可からず。况んや神道佛教は其の發達の淵源及び沿革を異にし、嚴密に言ふときは兩立す可き性質のものにあらず。幸に國民の宗教熱は餘りに昂上せざるを以て兩者の軋轢其の跡を絶つと雖も若し兩者何れかに對する狂熱を加ふるときは、必ずや此に宗教爭闘を惹起し來るを免れず。殊に佛教は、其の狂熱加はるに隨つて、教派爭闘すら之を敢てしたる歷史を有す。他教に對する爭闘の激甚ならざるは、內自ら此の如き紛爭に纏れ日も足らずして、一大團結するの機會少きが爲なるに外ならず。而して其の教派間の爭闘も起らず、他宗教との爭闘も起らざるは、人智開發に隨つて、斯る狂熱時代を經過したる結果と見るを至當とす可し。故に此の如ぎは國民の自由採用に一任し妄りに官權を挿して、之に干渉し、若くは之を鼓舞するに及ばざる也。

第二宗教心操の養成は殆ど遺傳的及び傳統的ならざる可らず。一時の附焼刃にて之を如何ともす可からざるもの也。况んや行政官の鞭撻に於てをや。加之ならず宗教上の觀念は客觀的の注入に依りて有効に國民の思想を支配するものにあらず、主觀的要求に依りて民の心中より澎然として起り來るものならざる可からず。若し國民自ら先づ此の要求を喚起せざるに外より之を強ゐんとせん乎、所謂「馬の耳に念佛」の類ならんのみ。敎育なき時代に在りては、客觀的注入、即ち宗敎傳播の要件たり。敎育普及の今日に在りては、主觀的要求即ち第一要件たり。之を忘却して漫然官權を以て宗敎上の信仰を建定し得可しとするが如きは思はざるの甚だしきものならずや

西伯利の瞥見（十）

享樂の爲めに結婚せし女子は長き生涯の夫婦間に貫徹せんとせし結婚以前に於ける甘い戀の理想と榮華の夢とは夫婦となりし以後の生涯に比すれば餘りに豫期に反し夫婦の情愛に不滿足を來し易く我儘なる女子の氣習は俄然性と化し離別となり其夫より去る殊に其日の生計に窮迫し共稼ぎを爲す夫婦より中流以上の夫婦に離婚の數多きは當然なるべし然れ共夫より妻を離別する數より妻が夫を捨てたる離婚數の多きは女子の個人享樂主義の發露を證左するものならん今縱令夫は離婚せざるも自己の夫より自己の情慾を滿足せしめ得る男子あらんか之と相通ずること多し斯くも婦人が夫に離婚を要求する原因とも認むべきは左の如し

一 男子が再婚以上の女子を娶ることを遠とせざること
二 僧侶以外の男女は三回迄は正式に結婚を爲し得ること
三 夫婦財産制たること

之に反し夫が妻を離別する比較的少數なる其原因左の如し

一 持參金騙取の目的にて結婚せんとする男子の惡意を充足せしめざる爲め即ち女子を庇護せんが爲め夫の申立に依る離婚は僧侶容易に其手續を了せざること
二 夫より婦を離婚したる際には自己の收入の三分の一を離別せし以後に於ても其妻たりし女子が他に嫁せざる期間は之に提供すべく餘儀なくせらるゝこと
三 男子の老齡と共に享樂の爲めに結婚すべき女子は其候補者の減少すること

夫婦合意上の離婚は何時にても之を爲すことを得るも一方同意せざる場合には法定上の理由あるに非ざれば手續を爲す能はず然して離婚せし場合に夫婦間の愛兒は如何に處分せらるゝやと云ふに特に約束なき場合には男兒は女親之を引取り女子は夫の家に成るの例とす結婚の目的上述の如く自己本位たる婦女子は同族の繁殖に迄其主義を貫徹せんとし姙娠分娩を嫌厭する風あり其理由左の如しといふ曰く

一 容貌劣惡となるを懼るゝこと
二 育兒に妨げられ交際場裡に出入する能はざること
三 神經過敏にして產兒の苦痛に過勞すること
四 夫は何等分娩の關係なく自己のみ生產の苦痛を與へられ是を不平とすること
五 生活難に陷ること

政界茶話

白髮翁

▲加藤の仙臺でやつた演說は實に堂に入つたものぢや、特に前段の外交關係に就ては格別な味がある果せる哉ア丿說論は全米の興味を喚起したといふネ

▲處で新聞の仲間には加藤たるもの反對黨攻擊に沒頭せず、モ少し大處から新日本の新政策を說けなど〻理屈を讃ひ居るのがある

▲哲學者や豫言者ぢやあるまい、加藤としてもや、時務を離れて突飛な空論が吐けるものぢやない、內外の實務に關して相當に抱負も述べて居るぢやないか

▲然るに世間が彼是れ注文をつけるのは、丁度政治家が角力や役者に注文するのと同じぢやよ、夫れと共に現內閣や政友會からは如何に望んでも、大抱負の聞かれないのを諦めたといふ證據ぢやし

▲一般國民中の心ある階級には近年の日本の內外の現狀が何となく不安で堪らないといふ氣分に充ちて居る、政治ぢやとか、國權伸張ぢやとか色々な聲で注文が發せられて居るのぢや新聞が加藤に難題をかけ駄々を捏ねるのは寧ろ加藤の光榮といふものさネ

日日歌壇（投稿歡迎）

編輯室の午後に　曉谷

いさゝかの疲れ覺えて午後四時を病間の如くぬるき茶を喫む

秋の拔毛ひとすぢ落ちぬ目の前の原稿用紙殘りの眞中に落ちぬ

昨日さきしコスモスの花音もなくほろゝと落ちてまた一つ落つ

郵さんが持つて寄越したコスモスの今日はこぼるゝ秋の夕を

電話 編輯 經理 營業 一三 一三 八九 番
定價 一ケ月 金七十錢 ……
發行所 京城府 ……
東京支局 大阪支局

創作　熱光の下を（三八）

曉谷

俺がお稻叔母さんの家に運入つて行つた時、お糸は夕餉の手傳ひをしてゐた。一寸俺を見ることは見たが、介然打つて默つた儘に冷淡な顏附をしてゐる。物も言はないのだ。

「譯はお糸から聞いて御存じでせうから、もう一度お糸を返して下さる譯に行きませんか、お母さん」

俺は座敷に上つて、お阿母と向き合つてから口を切つた。お糸がもう來さうなものだと思つて、いくらか大きな聲で言つたのだつた。

「貴郞はそれで好いかも知らぬが、親としちやお糸の身も考へてやらなくちやならぬケの」

お阿母は、俺の肝つ玉に響く位にねばつこく言ひ出した。唯、お人好しのお稻叔母さんだけは心配さうに默つてゐた。

「もう、何にも言はないで下さい、私はそれを言はれると非常に苦しいのですから」

「いゝえ、言はなけりや物事は解らないぢやありませんか。ね、よく物事は考へて見なさいよ。嫁に來て二ケ月になるかならぬ者の着物を質に入れて暮し向きの助けにするなんて、貴郞の親御があまり酷すぎると云ふものぢや。又、貴郞だつて、幾等若いからとは言ひ乍ら、それを默つて見てると云ふのは、嫁のことに餘り冷淡なやうなもんぢやと思ふがの」

「いえ、それは」と俺が辯解しやうとすると、お阿母は恰も裏長屋の嬶が口喧嘩に雄辯である如く、一息もつかずにまくし立てるのであつた。

「まア、聽きなされよ。そりやア兩人納得の上でお糸が歸つて來たのですから、貴郞が伴れに來るのはお糸にとつちや嬉しいでせうがネ。それは一應お糸にも聽いて見にや、妾からは御返事も出來にくい事ぢやケに」お糸も此の時、俺の横に來て坐つた。俺はお阿母の話に對して、お糸が極力辯解して吳れるだらうと豫期してゐた。

嫁の着物を質に入れた——それ程惡いことだらうか。俺のお阿母は言ふが、あれは一時、お糸の好意によつて出來た事ぢやないか。勸めでもしたやうにお糸のお阿母は言ふが、妻が夫の難儀を救つて吳れたと云ふ美しい事ではないか。俺は、愛する者のために犧牲になつた人間の奉仕——と云ふ心盡しに對して非常な、感謝を覺えてゐたのに、——それも、これもお糸の意思が原因になつて、堪え難い屈辱となつたことを悟いた。

「お糸。お母さんの仰有ることは大分事實と相違してゐる樣だ。お前からよく諒解の行く樣に辯解して吳れなくちや困るぢやないか。この儘では、まるつきり私達の意思は徹底しないのだから……又、先刻もお前から二人の意思と立場だけは明かにして置くからと言つてゐたのに、お前はそれを辯明しなかつたと見えるネ」

「母にはよく解る樣に言つてあります。貴郞と約束した通り詳しく話してあるのです」

「だつて、少しも徹底してゐないぢやないか。然し、それは、好いとして、私達が此の儘別れて了ふのは不可ない樣な氣がする。實は其後熟考してみたのだ。矢張り、お前は歸つて吳れなくちやいけない」

俺は段々昂奮して來た。雄辯にもなつて來た。然しお糸とお阿母だけは依然として冷い顏をしてゐる。一語一句、熱して行く俺自身の言葉に同情を有つて吳れてる者は、圍爐裡に豆柴を焚いてゐる太郞次の嫁さんと、性質の好い老猫みたいに眼をしよぼつかせてゐるお稻叔母さんとだつた。

「妾は歸る氣でも、親があるのですから妾の一存ぢや何うもなりませんワ」お糸は專橫な口を切つた

「母に相談して下さい。母が許れと云つたら歸りますから」

文人騷客　雅號の起因（一）

竹の島人

文人騷客の雅號は、其依つて起るところがあるのは言ふ迄もないが多くは其出生と棲める地名から取つたり、尙ほ私淑する古人の雅號に倣つたり、外に種々の起因がある。即ち賴山陽の山陽號あるのは藝州出身からで、俳人芭蕉の桃青が李白に對して稱した雅號といふから、後者に屬することになる、斯様なことを研究するのは、趣味の點から面白いと思ふ。自分が知つてゐるだけを、順序もなく筆のまに〱羅記して見る。

青木木米

尾張の人で靑木八十八といふ陶匠があつた。京都に住んだが、其名高く、其の製作品を得んと欲する者が多かつた。八十八は道に陶器の名匠であつただけに、風雅の心深く、時の文人騷客と交つた。彼の賴山陽如きは、最も親交なる友人であつた。八十八の雅號は木米と言つた。是は姓が靑木であつたから、其木の字を取り、そして名の八十八を縮めて米の字となし、木米と稱したのであつた。其著書に「陶說」といふのがあるを翻譯して陶家の參考書として價値あるものである。（天保癸巳四年五月十五日歿す年六十七）

望月玉蟾

望月玉蟾は京都の人で、畫を善くした。殊に金粉を用ひて畫を畫くことが最も巧であつた。初めは土佐光成の門に入り、後山口雪溪に就いて學んだ。それから狩野元信の畫風も參酌し、實は各名家の粹を拔いて、自家一流の畫風を成したものであつた。池野大雅とは交り深く、常に畫論を戰はせたといふことで、其論鋒が相一致したところから、畫に做ふことゝして後唐伯虎の畫風に服んだ。其の號の起つた所以は、姓が望月であるところから、月の異名である玉蟾のを用いた。姓と號とが能く相副ふもので、頗る面白いと思ふ。（寶曆五年八月三日歿す年八十三）

姓の一字を分離

其名廣く世に知られてゐなかつたが、京都に西川一四といふ俳人があつた。三號を明月庵といひ、其の師は蜀田嵐雪であつた。一四と號した所以は、姓の西川の西の字を分離したのであつたと「同悟る嶋と一隱秋の蝉」の辭世がある。（延享三年九月十四日歿す年三十）

內外報電

希臘皇帝御重態

[illegible]

英佛見解を異にす

[illegible]徹底的損害賠償を得むとする[illegible]支拂能力を斷絶せしむる[illegible]出さざる限りは到底[illegible]佛國の輿論は英國の態[illegible]依然として進まずと(巴里來電)

獨聯盟加入有望

[illegible]諸說紛々たるものなる[illegible]の質問をなしたるに對[illegible]て決定すべき問題にし[illegible]ユーボールド氏[illegible]か又斯かる發議の獨逸[illegible]へざるやと質問し首相[illegible]しと答辯したるに徹し[illegible]條約實行の誠意を示す[illegible]に在るかを察知するを得[illegible]より獨逸の加入を提議[illegible](東京來電)

芬蘭の獨立承認

[illegible]たる條項中に曰く露國[illegible]中立を保持するの政策を[illegible]を主張すと承認す又同條[illegible](東京來電)

露國借款移牒さる

[illegible]入れの申込に對して四國[illegible]に決したり各國公使は好[illegible]

露國人裁判問題

[illegible]を撤廢したるも裁判官及[illegible]雇入れ居れり結局從來通り[illegible]を裁判するの判決權を[illegible]べしと(哈爾賓來電)

陶道尹と熊事

[illegible]語りて曰く「今回の[illegible]に備へず燒け跡の[illegible]支那は目下是等の匪徒を[illegible]る限り日本軍行動に對[illegible]の代償として百五十萬[illegible]て合衆の一命を助けた[illegible]

支那軍隊增派す

[illegible]く日本軍に信頼しつゝあるが[illegible]確然として見[illegible](北京來電)

第二のフユーメ事件

ゼリコースキー將軍のウイルナ占領はダヌンチオ氏のフユーメ占領に類似せるものあり波蘭政府は之を否認したるに拘らず同政府はゼ將軍の行動を默認し居れりとは一般に知らるゝ所なり斯くて聯合國はフユーメと同一の新難關に逢着せり佛國が波蘭に援助を與へ居れるが爲め聯合國はゼ將軍に對し果して強硬なる處置を施し得るや疑問なるが同將軍は微妙なる形勢を看取し之を利用したるものゝ如く尚は波蘭がウイルナ及びリトアニア諸地方を占領したる結果として可なり多數のリトアニア人は波蘭の配下に屬するに至るべきも元來氷炭相容れざる關係にある波蘭人とリトアニア人と混合せば波蘭の形勢を騷むるのみならず兩人種の爭鬪は延て波羅的諸州の政治的調和を危くするに至るべしと(倫敦來電)

米の對露態度

ウ將軍承認に決す

哈爾賓發通報社新聞ザケヤ紙の報ずる處に依れば米國政府は[illegible]バフメイチフ氏に對し[illegible]を欲せず間接にセバストポールに於てウランゲル新政府と國際關係を結ぶべく同時にウランゲル將軍にして必要なる軍需品の供給事務を引受けることを通牒せりと、而してウ將軍の新憲法の發布及第一立法議會を召集したる後米國はウ政府を承認すべしと觀測せられ、猶ほ米國海軍當局者は、目下黑海セバストポールに碇泊中の米國艦隊を巡洋艦一隻新式水雷艇數隻を增加するに決したりと

差別撤廢案不提出

來る十一月の國際聯盟總會に提出せらるべきや否やに就き論議されつゝある人種差別撤廢案は結局帝國の不利益なるべきを以て或は多期聯盟總會には差別撤廢案の提出は見るに至らざるべしといふ(東京來電)

新命令航路指定

遞信省にては十一月一日附左の通り新命令航路を各其社宛十八日指令せらるべし(東京來電)

鮑督軍琿春へ

鮑督軍は哈爾賓古浴を經て琿春に向ふべく十七日長春に向へり(吉林來電)

齋藤總督着京

齋藤總督は春子夫人守屋秘書官を隨へ十八日午後八時五十分東京驛着入京せるが驛頭には[illegible]拓殖局書記官其他總督府滿鐵鮮銀關係者多數の出迎へを受け自動車にて四谷の自邸に入れり(東京來電)

市長彈劾取消

十六日京都市會は七十四銀行問題に就き安藤市長を彈劾し不信任決議をなしたるが十七日府知事より越權の違法なりとして取消と同時に其旨安藤市長に通達すべしと命令したり(京都來電)

和蘭前殖相東上

和蘭前殖民大臣フレート氏は令嬢同伴支那及朝鮮の視察を終へ十八日朝關釜連絡船にて釜山より下關着直に東上せり(下關來電)

對波敗戰影響

過激政府動搖乎

[illegible]過激政府の勞農第三十師團の如き公然反過激派たることを表明せり將來此の勢を極大して他軍隊に及ばし相率ひ反過激派を離るゝに至らば實際僅少の幹部黨員に依つて維持せらるゝ過激派政府の[illegible]べきのみ、而して斯る形勢を惹起するに至らしめたる近因は即ち對波戰爭の敗退悲なり

朝鮮の事は總て今後に在り

須く不轉退の勇猛心を要す ――齋藤總督縱横談――

[illegible]

琿春事變

琿春事變の根本を若起せるが今や滿洲朝鮮西伯利亞等の我軍隊は相呼應して剿滅の策に出で尚ほ特派隊の內地より出動するあり彼等の所謂休暇期の問題なるも討伐隊に取りて五寒の候山地を渉獵する搜査の困難は又想察に餘りあるべし朝鮮の國境は延長七百哩[illegible]僅に二千の警官憲兵を以て警備するものなれば其間多少の匪賊を綾ふて不良の徒の潛入するは洵に已むを得ざるべき[illegible]

中央當局

と打合せを要する件の一は十年度豫算に就て[illegible]此度携帶せる豫算は最小限度を要求せるに過ぎず率直に謂へば朝鮮の豫算は携帶せる豫算の二倍乃至三倍に上らざるべからず[illegible]

委任經營

[illegible]算の如何に依りて還えすると否とは決定すべし[illegible]のみに就て謂へば尙三年を餘し居れり煙草專賣の施行教育會議設置其他新豫算の內容にすら諸般施設の內容に至りては中央當局の意見を俟ちて決定することとなるべし要するに朝鮮の事總て今後に在り[illegible]其官に在ると民間に在るとを問はず極力一致不退轉の勇猛心を以て此大業を成就せざるべからず(東京來電)

北支飢饉と我對策(下)

山根倖三

▲去り乍ら之れは時世の齎みたる大勢ではあるけれども、督軍制度の廢止は一朝一夕に出來る問題ではない、何分双双の劍を眞向正面に振り翳して居るから、斷を以てせねばならぬが、其督軍制度の中央集權に移るは交通の發達し鐵道の普及と正比例するであらう。

▲鐵を踏むで堅氷至る。支那督軍制度の前途は李純の自殺に依つて暗示するものがある。恐らくは督軍制度の廢止は現實するの日があらう。而して其影響は我經濟界に及ぼすのであらう乎。

▲現在に於ては本邦商人は中央政府に對する外交上の關係に依りて換言すれば本邦政府の外交拙劣の[illegible]

▲然るに督軍制度の廢止せられ、政權の中央に集注せられん乎、問題は常に中央政府の許可を必要とするに至り、直接歐米人と競爭せねばならぬ事になるから、常に英米人の爲に制せられて、折角の[illegible]

[illegible]

李純の死と其影響

支那通某代議家談

▲江蘇督軍李純の自殺原因は金の問題である。更に換言すれば直隷派に於て張作霖や曹錕等の勢力の擴張せられたるに反し、李純の勢力が地に墜ちたからである。

▲勢力の失墜は位置に動搖を生ずる、日本では地位が動搖すれば辭職を以て問題を解決するが、支那では[illegible]却々の困難事である。出來督軍は私兵を擁して覇を唱へて居る。從つて私兵を養ふには巨額の金が必要である。

▲然るに勢力が失墜したともなれば金の融通が澀くなる。事態斯くの如き狀態なるに於ては、種々の難問題を生ずる。部下は金融の疎通を要求して止まず、中央政府に於ては種々の口實を作りて苛める、[illegible]

▲然も右は表面上の現象に過ぎず裏面暗殺せんとする刺客の妄動があるがある。實に風前の燈火にも竹しき生死の岩頭に在る。一命を完うせんが爲めに抵抗せんとすれば、部下は之に對して叛動する恐れ[illegible]

▲之れが李純の死を決した原因であらう。が併し各省自治の風潮が擡頭したることは見逃す事が出來ない現象で、殊に廣東人の廣東て輿論の高調が、李純の死を早からしめたる有力なる一原因なるを否認する事は出來ない、支那督軍制度の運命を物語る秋の一葉で[illegible]

英國財政の現在

復活せる經濟能力

過去二百二三十年間に於ける歲出と前後六箇年に亘れる戰爭に於て等しき巨額を消費し、聯合諸國に對しては數十億の貸付を行つた大英國は今や次第に其疲勞を脫して經濟的生產力を回復し、確乎たる經濟的能力を現すに至つた、[illegible]

英國の債務と國富

[illegible]

嘆稱すべき財政策

◇英國なるを得たかと言ふことは英國大藏大臣の寄せるところを一見することによつて明示される。而してそれは國家財政上の一ローマンスで言はねばならない。英國及び其財政を最も必死の冒險に飛込ましめた大事件の中立を擁護するの英國の參戰――は一九一四年八月一日より三日に至る銀行休日の際に起つたのである。

◇銀行の休日中はすべての金融活動は中止される、此都合よき事情は、同書の言ふ通り、差迫れる危機に處する方法を考究するの餘裕を與へた。休日は更に延期されてである。

[illegible]

通貨漸次縮少

新資金の需要起らず季節柄なれど撒布の荷動と見るべきものなき等の材料は商況の不振を語り朝鮮銀行券の如き新規貸出手控への爲め逐日縮少の傾向にて十八日は九千百萬圓臺に落ちたるが目先或は九千萬圓臺を割るにあらずやと豫想さる

產鐵解散要望

朝鮮產業鐵道會社の株主は財界の動搖に鑑み同社の解散を要望し夫々大株主有志間に協議相進めたる結果去る九日臨時總會請求書を會社に提出し同時に一般株主に對しても通告せるが解散決定の際は一株に對し四圓七八十錢の拂戾可能なりと

朝郵定款改正

朝鮮郵船會社にては來る三十日株主總會に當期決算並に定款改正案を提出する事となりたるが定款改正は從來取締役代表者即ち會長若しくば社長一名を總督より推薦することなりゐたるを右の外專務取締役一名をも總督より推薦すと改むるものなりと

遞信幹部異動

遞信局經理課長佐々木三郎氏遞信事務官轉出の結果課長の後任は貯金管理所長副事務官遞原達氏襲ひ又管理所長には事務官高橋利三郎氏任命されたり

辭令

十八日附

依願免本官 朝鮮總督府獸疫血淸製造所技師 森田平治郎

輸出制限撤廢

近く仁川商業會議所より本府に向けて請願中なりし工業原料其他小麥粉等の輸出制限撤廢に就きては本府に於ても充分其必要を認め居れるも同分內地に於ての阻止せらるに依り其關係上朝鮮に於てのみ撤廢し能はざるが取扱上大に手心を加ふべき意嚮なりし所今回農商務省令第三十四號を以て十月三十一日限り廢止する事になりたれば自然朝鮮に於ても近々其撤廢を見るに至るべしと(仁川)

營林廠の着材

營林廠の筏流下は來る十一月中旬[illegible]

總督參內期

十八日午後東京に入れる齋藤總督は近く畏きあたりの御都合を伺ひ參內の上聖上陛下に現狀を委細奏上する由其際尙朝鮮產業狀態を獻上すべしと

浦潮銀貨發行

政府にて更に新紙幣を發行すべしとの說ありしが一般に政府に於ては今後豫算を金留建となし諸税金も之に依りて徵收するに決せるを以て紙幣の代りに銀貨を發行する計畫ありと

鮮銀派出所

朝鮮銀行は咸鏡北道雄基に派出所を開設し去月廿四日より營業を開始し居れるが預金は利子特別當座日步一錢二厘、當座無利子にて又爲替は手數料普通無料其他百圓に付[illegible]

關野博士の講演

關野博士は昨年歐米及印度や支那の視察を終へて工學博士關野貞氏の朝鮮教育研究會の主催にて京城高等女學校に於て今二十日午後四時半より本社及朝鮮總督府の支那及印度の視察談を開催せらるゝを機會に歸朝されたる博士は朝鮮研究上の用務を帶びて入京數日滯在さるゝを機會に講演を依頼したるものなり

一夕の清話

一昨十八日の夜であつた話等有志相計り元高等法院判事として久しく京城に待り朝鮮研究者として名高き淺見倫太郎氏(目下宮內圖書寮囑託)を始め總督府囑託の關野博士及び京都大學教授の今西龍氏等三氏を京城ホテルに招待して晚餐會を催した會するもの總督府の連中を初め其他を加へて十餘名に過ぎなかつたが、何れも朝鮮研究に趣味を有して居る學者のみであるから、京城では珍らしい清き會合であつた食事中先づ淺見氏が檀君論を持ち出すと檀君の檀は木ヘンか土ヘンかと云ふ字體の研究が初まつた、土ヘンに書いてあるのもあるし木ヘンに書いてあるのもあると云ふ說も出た、さうすると檀は日本の梓の事で、朝鮮では妙香山を初め長白山等に多く產するが、南鮮地方には殆ど無いと云ふ話も出た、終に檀君の存在如何といふことに話しは發展したが三國遺事に初めて檀君なるものが現れたが、此書は高麗末に出た本である、要するに檀君は高麗末より以後に出來た本に出て居るので其れ以前の本には無いといふ說が多かつた終に關野博士の說明で檀君は後世の假造的人格で、そんな人間は居なかつたと云ふことに斷定された、さうすると今度は天照皇大神宮や素戔嗚命の問題が出た是れも何うやらと云ふことに結論された、神武天皇說も出たが是亦要するに各國何れも太古史に書いてあることは之を立證する材料に苦しむ、殊に個人でも系圖には善い加減の事を書いて祖先を立派なものにすると同じく各國民族の祖先も後世より好いものに造り上げるのであるといふことに話は落着いた、其れから關野氏の本は何だかビンデ臭くて不愉快だ、此不愉快を忍んで朝鮮の蔵書を渉獵するのにしても其忍耐と勞苦を賞して博士位にしても善かろうと云ふ說が出ると、其だから大邱の高橋君は博士になつたでは無いかと云ふ皮肉も出た、朝鮮話は是れで打切となつて今度は關野博士の獨逸視察の話が出た

[illegible]

人事

▲柴崎鐵吉氏(京城中學校長)は十八日附を以て兵庫、大阪、奈良、三重、愛知、岐阜、栃木、東京、神奈川、京都の各府縣へ視察の爲め出張被命

▲福島和吉郞氏(御用掛)は同上道及咸鏡南道へ出張被命

▲水谷千萬吉氏(平壤鑛業所長)は十九日朝東京出張被命

▲淨法寺五郎氏(第二十師團長)十九日朝龍山出發三十九旅團方面に

▲吉澤忠男(京畿道)[illegible]北里柴三郎(北里研究所長)同上[illegible]

[illegible]

本田譽義

右者先月限り退社し爾後本社は一切關係無之候

京城日日新聞社

株式界

[illegible]

商況

十九日大阪入電後場

[illegible]

十九日東京入電前場

[illegible]

京株市場出來值(十九日)

銘柄	前場	後場
京取	一七、五〇〇	一六、八〇〇
京取	一七、〇〇〇	一五、九〇〇
殖新	一一、二〇〇	一一、一〇〇
仁取	一六三、〇〇〇	[illegible]
殖銀	四一、一〇〇	[illegible]
實銀	八、八五〇	[illegible]
實銀	八、六五〇	[illegible]
仁興	五五、四〇〇	五五、五〇〇
仁興	五六、〇〇〇	[illegible]
滿毛	九、〇〇〇	[illegible]
殖鐵	七、三〇〇	七、五〇〇

出來高 十八日後場・十九日前場 累計 甲 五六、七〇〇 五七〇

仁川米豆取引所仲買人 ミ 仲買店

仁川期米特電

十月十九日前場

[illegible]

東京期米特電

十月十九日前場

[illegible]

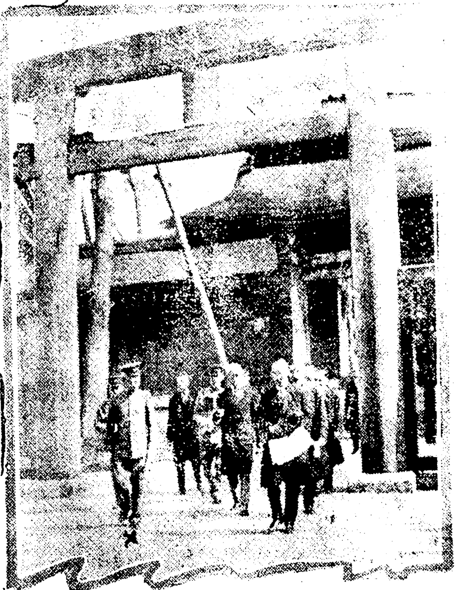
大阪期米特電

十月十九日前場

[illegible]

十月十九日後場

[illegible]



伏見元帥宮殿下明治神宮御檢分

嚴肅に竣成せる明治神宮御檢分の爲伏見元帥宮殿下には十六日午前御檢分の爲代々木の明治神宮に成らせられたり　×印は宮殿下

羅南司令部前進す

十九日午前十時三十分　軍司令部公表

羅南に入りたる第十九師團司令部は其の少許を殘し十六日を以て會寧に前進したり

盛に密偵を放つ

遞傳機關を設け烽火を揚げ

巧みに逃晦しつゝも

赤化せずば已まずと豪語す

不逞鮮人と馬賊團とは其後益々連打を設け日本軍の姿を見るや直に烽火を揚げ合圖しつゝあり又彼等は假令一敗を保ち互に密偵を我軍駐屯地並に朝鮮各地に放ち逐一狀況を報告し巧に姿を晦まし地に潜みるとも朝鮮を赤化せずんば已まずと豪語し居れり遞信を交換しつゝあるもの如く琿春附近にありては遞信機關草

賊の軍需品を押收

支那討伐隊

賊團中にパルチザン混入す

三岔口駐屯の吉林陸軍第三混成旅歩兵第一團第三營の主力約三百は十一日馬賊討伐の爲老黑山（三岔口西南約十五里）方面に向出發せり指揮官は張督辦官十二日三岔口により老黑山方面の馬賊に迫るべく支那多衣（?）三百六十名分及支那靴三百足を押收せる小馬車は三岔に東門外通過の際支那討伐隊の爲押收されたり該物品は三岔の店々より買集めたるものなりと眞僞疑はしきも左の風説ある馬賊頭目の馬賊は本年四月日露衝突事變の際スパスカヤとイマンとの間に於て過激派に買收されありたるものにして目下彼等の中にはペルチザン混入しありと（尼市來電）

南滿洲不安に襲はる

不逞團の跋扈と諸言に

良民屢々避難し

暗殺—掠奪盛に行はる

暗殺隊は

洪範團は

此の戰鬪に

穩城方面

二十日は王世子御誕辰

鳥居坂御邸に賑しく御祝ひ

フ中尉

故國に月桂冠を授らる

空界の勇者

戶口調査の結果では内地人が増して鮮人が減退

京城の人口約二十五萬人

現住者

世帶數

外國人

支那で早婚禁止

違犯者は處罰

院展の墨塗り

落選の腹癒だと自白す

男？女？

怪物パツパの正體

大金を投出して

自前にさした旦那

追究した

藤左エ門

大枚の金

犧牲者の弔合戰

機上から爆彈を投じ

國旗を背負て蕃人避難す

自動車

鮮童を轢く

永樂町二丁目で

表看板

軍資金募集を

の強盜團逮捕

太公望大喜び

仁川漁撈解禁

六十一日

マツクス氏の容態

絕食實に

五ケ國の國旗

露公使館上に

又復た電氣の故障

市民の憤激

絕頂に達す

十月二十日午後四時より

京城高等女學校に於て

工學博士　關野貞先生

支那及印度視察談

主催者　朝鮮教育研究會　京城日日新聞社

重復や

明治神宮祭當日

諸官衙は休暇

學校にては遙拜式擧行

十一月一日明治神宮鎭座祭には大祭日に準じ諸官廳も特に休暇を賜はるべく尙各官廳學校に於ては夫々遙拜式を行ふ（東京來電）

花柳界の今昔譚（六）

殿サンの御意は「忍ぶ戀路」

二分の金主の又兵衞さん

不破や名古屋の大胆み

料亭千歲の女將談

頭を掻いて

岡サンが不破

厄介な遊蕩兒

繼母を泣かせる

松葉に

蕩盡し

三面拔萃帖

運動界

小說 判官 照手姫 (百三)

旭亭 桃山 口演　明舟 畫

劍術指南の忍び足

兵「さうか、宜し、然らば此の山を退散する時に都合に依つたらお前一人だけは私が連れて逃げてやる、但し逃げる先は丹波國へは行かない、お前の阿父さんの所へ送り屆けてやる、私達は假令丹波に居ても人の娘や女房を誘拐かすものではないから、安心なさい、序に尋ねるがお前の阿母さんを殺した賊は何と云ふ」萩「其れは其後藤井村へ仕事に參つて殺されたといふ天輪坊」兵「アヽ天輪坊、其れは殺された、生きても居れば親の敵討ちをさせてあげたいが、死んでしまつたと云ふなれば其れ迄、お前も諦める方が宜い」萩「私も其れは諦めて居ります」なれどもその話をして居る處へ弟の大八が入つて來て 大「兄様眼を覺まして居るか」兵「ウム、何だ」大「是れは妓にも女が來て居るね、今乃公の處へも女が一人、飯の炊き附だと云つて來た、怪しからん事だと默つたけれども、又た返しても可怪しと思ひ、此處に寢て居ろと布團の中へ寢かして來た」併しさて驚いたな先刻の此茂次郎には 大「アヽ驚いた、何處に居るか會ひたいものだ」夜も段々更けて參りました、兄弟ヒソ／＼話をして居ると、其の座敷へ拔足をして行つて參つた此茂次郎、兵助先づ見付けて直ぐに呼込み 兵「何でお前は斯んな賊の中に入つて居るのか」次「實は矢張の賊ひに讒れ、兄さんには別れ、主君には別れ、チリ／＼になつて了ひ、どうぞ御主人の所在、兄貴の行衛を搜し度と思つて國々を遍歷致し、此四國には大分惡の殘黨が居るといふ事を聞いたから、或はさういふ群に入つて居りはしないかと四國に渡つて間もなく此の山中に迷ひ、賊の爲に引つ張り込まれた山寨、手前の現在を取つて片つ端より取つて投げたる爲め三人の頭も敵はぬと知つて兜を脫ぎ、どうぞ一同の者に劍術を教へて貰ひたいと云はれ、實は賊を退治して山寨を横取り、後の憂ひのないやうにして平らげうとも思つたが、何しろ向ふには飛道具もある、餘り一人で強がつても叶はない、まだ／＼大切な命だと取り直して、好い加減にして此の窟に居る、しかし決して永く居る譯ぢやアない、ツイ此頃來たばかりだ、手前は賊に甘んじて一生送ると云ふ事をする本意では御座いません、併し御家老が山賊だの山賊だのと云つて此の山寨へ入り込まれたはどういふ譯で……」此時後藤兵助は座を正して 兵「實は我々は藤井村の七郎右衛門方へ滯在して居た、其處へこゝの天輪坊、銀津の今夜叉、準太郎の三人が仕事を仕掛け、準太郎は生捕り、今夜叉、天輪坊は討ち取つた、其處へ更に太郎右衛門から頼まれて賊を退治して貰ひたいと頼まれた依つて探り手を加へる積りで入り込んで來たのよ」次「其れは有難い、既に與五郎の心を一致し、三人で此の賊を退治しませう」兵「マア何しろ秘すべし／＼、飽までもお前とは知らん心算で」兵「其れが好い」此茂次郎は元の座敷へ歸つて寢る、後藤兄弟は別れ／＼になつて寢る、女二人には能く言ひ含めたので、何れも堅く內密にして居りました

演藝案內

壽座
十月十九日より特別大寫眞
本町壹丁目 電話五九七番
パテー社ニウス週報
新派悲劇 散り行く花 全五卷
嗚呼忍び泣く涙の女が胸に秘めし悲しき思ひ出へ……一片の同情を寄せられて薄命な佳人の爲め一夕の御高覧を
米國パテー支社大傑作
冒險活劇 電光石火 全卅一卷
第一編黑線の木片 第二編…

黃金館
黃金町 電話二六六・二六三七
國活會社特約
改築落成 十月十五日より
開館第二回特別興行
晝夜共ニ景品進呈
特に四大寫眞公開
米國パール・ホーア會社作「原名山猫」
新派悲劇 笠森お仙 全七卷
劇中には笠森稲荷の鳥居際に、お仙の茶屋と云ふのがありしたお江戶美人の一例に數へられた美人薄命の一例に數へらるれずいロマンスを殘した今にいもなく數らしい花の姿を小唄に謳はれていた物語

人情活劇 第一聲 全五卷
名女優ジャッキー・サンダース嬢出演
說明者 泉 春葉
エメラルドの樣な凉しい瞳みを有した美しい乙女は父親の溺愛の手に育てられて我儘勝手なお轉婆で有つた

連續活劇 田宮坊太郎 全五卷
第十八、十九、二十篇上場

舊劇 金名 全五卷

新派現代劇 血潮の鳴戶 全五卷

大正館
櫻井町 電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
十月十五日より特選大寫眞提供
喜劇「ニコノ／＼」
喜劇「愛犬の復讐」
尾上松之助大車輪劇
舊劇「白旗八郎」全四卷
米國ラスキー映畫
ヤーロット・ウオーカ孃主演
情話「孤松の棧道」全五卷
東京大阪朝日新聞選拔懸賞當選渡邊霞亭氏大傑作
新派悲劇「黑水晶」全六卷
晝夜開館

朝鮮郵船

元山出帆		
大阪行	十月廿五日	會寧丸
下關行	十月廿二日	濟州丸
江原道行	十月廿九日	立神丸
敦賀行	十月廿四日	咸興丸
浦潮行	十月廿二日	清津丸
雄基行	十月廿五日	清津丸
釜山出帆		
大阪行	十月廿七日	平安丸
大阪行	十月二十日	平壤丸
下關行	十月廿五日	會寧丸
新義州行	十月廿二日	咸鏡丸
北鎭行	十月廿二日	濟州丸
鬱陵島行	十月廿二日	京城丸
原道行	十月廿二日	平安丸
濟州島行	十月廿二日	濟州丸
木浦行	十月廿二日	海島丸
新義州行	十月廿四日	櫻島丸
木浦出帆		
大阪行	十月廿九日	新義州丸
釜山行	十月二十日	巨濟丸
濟州島行	十月廿四日	慶興丸
多島海行	十月廿一日	公州丸
仁川行	十月廿七日	全州丸
新義州行	十月二十日	新義州丸
橫濱行	十月廿三日	平壤丸
仁川出帆		
大阪行	十月廿七日	新義州丸
新義州行	十月廿一日	咸鏡丸
木浦行	十月廿二日	全州丸
海州行	十月二十日	順天丸
鎭南浦行	十月廿五日	慶德丸
青島行	十月廿四日	江原丸
鎭南浦行	十月廿七日	櫻島丸

電氣

生活改造ノ威力

聖上陛下 皇后陛下 御嘉納 御買上 賜之光榮

無くてはならぬものは蓄電池の使用廢物利用で家族も來客も無上の樂しみと便利機械で電氣が製して入れられる理想通り電氣燈
亦電燈の電氣を移して小さな容器に蓄へ置き自由に特歩きが出來、使つて無くなれば誰でも容易に補充が出來、何回でも繰返して使用が出來る、驚く程經濟と便利なる專賣特許品蓄電池を早く試用して實益を得られよ本社が實益實効を責任を以て斷言保證す
世見の電燈會社が横暴とか電燈が暗いとか料金が高いと苦情を申す必要は無い、早く此電燈を使用して夫れ等の解結をしてはどうですか

本品の特色

電氣を容易に作りて入れられる〇どんな電燈からでも入られ人子供でも素人が出來る〇例へば出來て費用がかゝらず〇電燈の電氣を自由に〇正しく使へは決して電氣の變る事無く…であります

應用品目錄

手提燈、自轉車燈、人力車燈、懷中電燈、室內電燈、水中電燈、探險燈、看板燈、電氣時計、電鈴、發火用、發動用、醫療機、其他各種電氣器
以上の品は各種實施許品にして吾等は現代社會の要求に應じて研究苦心の結果發明したる特許品…

專賣特許輕便電熱器 各種
炭價暴騰驚くに足らず オンドル用

電氣燈、炬燵、電氣湯沸し、電氣火鉢、ストウブ、乾燥用、スキ焼鍋、保溫等如何なる熱の用途にも應じて出來る電熱器は最も安價で丈夫で重寶で世界のレコードを破りたる特色品であります
本器は消費電力は僅に〇一五ワット時以下にして普通電燈線にして使用するも安全です〇一晝夜御かけなさい…

本社ハ左記ノ場所ニ營業所及分工場ヲ開始致シ候ニ付特約販賣御希望ノ御方ハ至急御來談相成度候

京城本町五丁目四二
大日本電氣工業社營業所
京城岡崎町九十番地ノ二
大日本電氣工業社分工場
電話 九五五一